

ここには 健保組合です！

加藤運輸有限公司の巻

(松戸市)



「冷夏の子報」だった今年の夏は一転、日本各地で猛暑日を観測しました。9月に入り朝晩は幾分過ごしやすくなり、秋の気配を感じつつも日中はまだまだ厳しい残暑となった9月2日、私たちは第66回事業所訪問先として、松戸市に所在する加藤運輸有限公司(加藤善信社長)にお邪魔することになりました。

松戸市は、千葉県北西部に位置し、西側は江戸川を挟んで東京都葛飾区、埼玉県三郷市に隣接し、都心から電車で約30分の好立地条



▲加藤健一専務

件とあって、首都圏の住宅都市として発展を続けています。平成27年3月には、J-R常磐線の一部列車の東京・新橋・品川方面への直通運転が予定されており、さらに都内へのアクセスが便利になります。加藤運輸は同市小金に本社を構えられていますが、今回は、総務機能を一括管理されておられる水新田にある馬橋車庫に向かいました。

「こんにちはは健保組合です！」と事務所を訪ねると事務員の方に迎えられ、応接室に案内されました。しばらくすると今回の取材に快くご協力をいただきました加藤健一専務が入室され、ご多忙のところ貴重な時間をちょうだいし、取材を始めることとなりました。加藤専務には組合会議員として日頃より組合運営にご尽力をいただいております。

ディングに工場を構え、ポリエチレン製の買い物袋やゴミ袋等のビニール加工製品の製造から販売を手がけるナムディングカトー(株)と、合計6社のグループ企業を形成されております。そして、トラックの保有台数は設立時の5台から、グループ全体で400台を超えるほど飛躍的に事業規模を拡大されてこられました。

長引く経済不況や燃料価格の高騰、コンプライアンス遵守によるコストアップなどの厳しい経営環境の下で加藤運輸グループは、スケールメリットの活用と、長年にわたり培ってこられた相互のノウ



▲出発を待つ加藤運輸(有)のトラック

ハウを融合することでシナジー効果を発揮し、それぞれの顧客基盤を維持強化して、今後ますます企業価値を高めていくことでしよう。

教育と交流を通じて人材育成に取り組み、組織全体の底上げにつなげる

次に、人材育成と将来ビジョンの話題に移行しました。

同社では、経営コンサルタントなどの専門家と時間を重ねて綿密なヒアリングを行い、経費削減や事業効率化を実行するため徹底した現場指導に注力されています。特に現場責任者は、会社と社員のパイプ役として重要な責任を担い、業務管理を遂行する中心的存在ととらえ、定期的に責任者会議を開催してスキルアップに努めているとのこと。会議では、経営トップがめざす方向性や従業員の職務内容を明確にし、教育と交流を通じて経営者意識を兼ね備えた人材育成に取り組むことで現場の士気を向上させ、組織全体の底上げにつなげようとしています。

また、社員とのレクリエーションでは、全社員が一堂に会して新年会を開催して日頃の労をねぎら

☆ ☆ ☆
まず初めに、4月の消費増税時の個人消費や住宅投資などの駆け込み需要の影響についてお聞きしました。

皆さまの事業所と同様に、急激に出荷量が増加し、トラックおよびドライバー不足が続いたそうです。消費増税による出荷量の増加は一時的なことですが、今回の事態は改めて業界が抱えるドライバー不足が露呈したかたちとなりました。不規則な勤務体制や長時間労働、給与水準の低さなど諸条件と少子高齢化の進展もあり、若年ドライバーの労働力が大幅に減少し、深刻な問題となっております。多くの課題を抱える運送業界ですが、構造的な問題を解消し、「日本経済の大動脈」として、安定した物流環境が構築されるよう、抜本的な改革が期待されます。

時代のニーズに敏感にアンテナを張り巡らせ、ビジネスチャンスを実確にとらえて今日まで発展

続いて、同社の社史についてお伺いしました。

加藤運輸は、第二次オイルショックによる世界経済の混乱の中、ついでのことです。このように、スキルとモチベーションアップの相乗効果により、志高く働くことができるのではないのでしょうか。

最後に、将来ビジョンと健康管理についてお聞きしました。将来ビジョンについて加藤専務は、「グループ全体で、製造から輸送・配送まで一貫したサービスを提供できるように『近未来型物流創造企業(センター化)』をめざし、構想を練っております。また、社員の健康管理、交通安全の組織体制として安全推進室(仮称)の設置を考えております」とお話ししてくださいました。「現実までの道のりは平坦ではないです。『ね』ともつけ加えられました。加藤専務の目には、目標を達成する意欲が満ちあふれているようにお見受けし、私たちは「ぜひとも実現してください。期待してまいります」と応援のメッセージを贈りました。

☆ ☆ ☆
日頃の健康管理については「特段、何もありません」と謙遜されていましたが、暴飲暴食は控えるよう心がけているとのこと。とはいえおつきあいの機会も多いでし

「迅速・確実・丁寧」な物流サービスを掲げ、昭和55年10月に松戸市で産声を上げられました。設立当初は、地元の菓子問屋を取引先として、スーパーや小売店への配送業務をスタートされました。以来、地道な営業活動と継続的に新規開拓を行い、現在は主に、カップメーカーが製造する納豆や豆腐などのプラスチック食品容器の全国配送を手がけられているとのこと。

経営基盤を構築できた秘訣について、加藤専務は「顧客の経営拠点の拡大に伴って営業所等を新設し、適正な人材を配置することで顧客と接点の強化を図り、効率的かつ効果的なサービスを提供できたことではないでしょうか」とおっしゃられました。このように、時代のニーズに敏感にアンテナを張り巡らせ、ビジネスチャンスを的確にとらえることで、加藤運輸は今日に至るまで発展を遂げられています。

現在は、運輸部門である(株)山田運輸店、山岡運輸(株)に加え、学校や官公庁等への書籍・教材・事務販売部門の(有)ナカジマや、輸入販売および輸出業務を担う(株)カトートレーディング、ベトナムのナムようし、会社経営の責任やプレッシャーで心身ともにご苦労が絶えないかと存じますので、くれぐれも健康には留意され、ますますのご活躍を祈念しております。

こうして、話題の絶えない取材の時間もあっという間に予定の時間を迎えることとなりました。加藤専務をはじめ、加藤運輸の皆さま、ご協力ありがとうございました。

最後に、加藤専務お気に入りの「正範語録」が応接室に飾られていましたので、原文のままご紹介いたします。

真剣だと知恵が出る
中途半端だと愚痴が出る
いい加減だと言いつぶばかり
本気でするから大抵のことほど
本気でするから何でも面白い
本気でしているから誰かが
助けてくれる